

古高取通信

No.7

平成22年 9月

古高取を伝える会会報

直方の高取焼



古高取

目次	
古高取の魅力伝える	2
古高取の広場	3
活動の記録	4
なんでも掲示板	5

『地域が誇る陶芸文化を、

若い世代に受け継いでもらいたい』

古高取を伝える会も発足して3年が経過、会員相互、励まし合い、その思いが地道な運動を支えている。

四〇〇年前の陶工達の生きざまは現代の私たちに何を訴えているのか、私たちは、何を学びとればよいのか。

古高取の歴史的、文化的価値を再度、たしかめあう時期に来たのではないか。それは、私たち会の今後の活動内容にも大きくかわる問題である。

九月二十八日から直方谷尾美術館で直方の宝「古高取展」が開催される。あらためて、古高取の原点をそれぞれが、たしかめあう、大きな催しである。会員一人一人が力をあわせ、その成功に向け努力が必要である。

能間 瀧次

古高取の魅力を伝える

輝きはじめて子どもたち

山本 元春

古高取を直方市の歴史的財産として、その魅力や知識を高め、古高取を誇れる子どもたちが育っていく活動の場として焼物教室を、市内十一校の小学校六年生を対象に開催してきました。年間の実践を各校が計画し、その計画実践に従って「古高取を伝える会」の学習の時間と事前の指導が実践されていることは、大変な進歩であると思われまます。

実際の焼物教室の会員の指導の場においては、古高取についての資料を基に一節一節を子どもたちの読者を替えての音読をとおして高取焼の概略を理解させるとともに、直方の内ヶ磯の高取焼の窯で発掘された陶器類やその破片を見せ、また手に触れさせることにより、一層の理解を深めさせる機会を与えられていました。今までの実践の過程で「直方の宝」と言うべき高取焼を多くの方々に理解して欲しいという願いをこめていますが、子どもたちに素晴らしい興味や関心を抱いている姿が見られ、



真剣に焼物作成に努めているその姿には感動させられ、大変な喜びを感じています。

また学校においては、自作の丹精こめて作られたお茶碗でお茶会を開き、日本の伝統文化の体験は大変有意義な催しであり、焼物作りへの意欲が感じられます。

地域においての焼物教室は、年々実践意欲が感じられる状態でありますが、充実した焼物教室の発展を考えると、現状では会員不足が今後の課題となりそうなおもいます。

今までの焼物教室の活動の主体者で「古高取を伝える会」の指導者でもある小山亘氏は、古高取内ヶ磯

窯で発掘された茶器と出会ってから、古高取の研究を始められ、福岡県でも有名な研究者として現在に至っております。

焼物教室の指導にあたっては、発掘された陶器や破片、その他参考資料を持参され、子どもたちや一般の方々に対して、常に笑顔で理解しやすい言葉で指導され、「古高取を伝える会」の発展のためにご尽力されていることに心から感謝しています。

個人作品の高台の削り作業から素焼き、釉薬をかけ、本焼きと陶芸の工程の中で陶器の魅力を生かす一番大切な作業であり、一生懸命作り上げた作品が良くも悪くも、窯たきで決まってしまう。その気遣いをしながら窯たきに努力されている能間会長に敬意を表すとともに感謝しています。

最後に、次代を担う子どもたちに歴史的財産、日本の伝統文化を伝えることによって、日本の心を知らしめていくことも私どもの使命なのかもしれません。教室での子どもたちの目を見ていますと、徐々に興味を持ちはじめ、輝きはじめてように感じました。このような経験をおして学んだことを将来に生かしてくれればと願ってやみません。



四百年前を想う

日隈 精二

以前より、内ヶ磯窯で焼かれた茶陶を眺めていると、その窯の主役は李八山ら朝鮮人陶工ではなく日本人陶工ではないかと思つてきた。

そこで焼かれた茶陶の特徴は、「あそび心」満点の自由奔放さである、それは京の空気を知り且つ茶の湯を知る人物でなければ表現することは出来ない。

当時の日本と李朝には次のような違いがあった。

現在、日本語は日常用語、十四万語に及んでいる、「大辞典」によれば方言、古代語、帰化語、敬語、謙讓語等を含めると七十二万語に及ぶとされている。

古来より日本人は世界一多くの語彙を持つ民族と云われ、その感性の豊さが日本の文化の奥深さや多面性を生んできた。

また当時においても、多くの日本人が文物に親しみ庶民でも茶の湯を楽しむ事が出来た。

一方、李朝ではハンダは卑しい文字とされ両班や一部の者は漢文を使用し庶民と上層階級には文化的断層があった、また識字率に於いても日本と相当の違いがあった。

日本人陶工の地位はと云うと信長や秀吉の政策で瀬戸六作や織部六作のように国内を自由に往来できる権利を与えられた陶工達があった。

李朝の陶工は移動の自由も認められず、利益を得る卑しい行為をする者として最下層の立場にあった。

十六世紀初期に描かれた洛中洛外図屏風「島根県立美術館」蔵では、庶民が老若男女を問わず大胆な柄で色彩豊かな衣装を身に纏い洛中見物を楽しんでいる。他の洛

中洛外図屏風に於いても同じであり、たとえ日本の中心地だとしても、その姿は豊かで自由な社会が存在した証であろう。

一方、李朝では男女とも上下白一色で庶民が衣装を楽しむことなど出来なかつた社会である。

陶芸の面では、日本では土灰釉の他、鉄や銅の鉱物釉など多彩な釉薬を使っているが、李朝では井土茶碗や熊川茶碗の様に土灰釉を使ったものが中心である。その他、内ヶ磯窯の形状、使われている轆轤、手印を入れる習慣などは日本特有のものである。

また李八山個人について云うと塾居中の山田窯で焼いたとされる茶碗は内ヶ磯の窯で焼かれた茶陶と明らかに雰囲気が違う。さらに李八山父子が京に上り小堀遠州の指導を受けたのは白旗山窯に移ってからである。



内ヶ磯窯で焼かれた茶陶のテーマは「あそび心」である、それを器に込めるには長年日本に住み、日本の文化を十分に理解していなければならぬ。

李八山ら朝鮮人陶工が日本の文化に馴染み活躍するようになったのはもつと後の時代と考えるのが自然ではないだろうか。

古高取の広場

伝承の系譜

永富 準一

いずれの郷土にあつても、伝承文化といわれるような故事来歴、昔ばなしの一つや二つはあるものだ。

なかでも子供たちにとって教育効果が高く、未来への夢を語れるような伝承の構図はいわゆる語り部の得意とするところであろう。

古高取遺跡は福智山の自然愛によつて育かれた郷土の誇るべき文化遺産であり、文化財としての価値に加え、郷土回帰プロジェクトの一つの象徴とも言えよう。

ところで、伝承の技法は種々あるにしても歴史的認識を忠実に未

来へとつなぎ、さらに地域おこしに生かすためにはそれなりの知恵と工夫が必要である。

私はいま紙芝居をとおして子供たちとのふれ合いのなかで、彼等の目線に発信できる手作りの題材を模索している。

子供たちの心の琴線に触れ、ふるさとをいつくしむ伝承文化は何か、を考えている。

郷土を愛する者の一人として、次世代へ残せる歴史遺産にあらたに付加価値を与えようとするときに、「古高取を伝える会」の伝承の系譜は地域おこしのかなめではなからうか。



活動の記録

● 子供焼物教室

前期(平成二十二年五月～七月)

今年度の子供焼物教室は、前期、7校が終了しました。各小学校の6年生の全児童と教師たち、日曜参観日では、保護者の方も参加しにぎやかで、和気あいあいの授業となりました。

作品製作中にとってもヒビが入りやすく、大変苦労していましたが、どの子も集中して取り組む姿勢に、いつも感動しています。

今年は、自分の作った作品で、是非、お茶会をして欲しいと思います。

永富 セツ子

く・く・く・く・く・く・く・く・く・く・く・く・く・く・く・く

「第一回」

〈平成二十二年五月三十日(日)〉

場所：新入小学校

「第二回」

〈平成二十二年六月四日(金)〉

場所：直方西小学校



「第四回」

〈平成二十二年六月二十二日(火)〉

場所：直方東小学校



「第三回」

〈平成二十二年六月十一日(金)〉

場所：直方南小学校



「第六回」

〈平成二十二年六月二十七日(日)〉

場所：上頓野小学校



「第五回」

〈平成二十二年六月二十五日(金)〉

場所：直方北小学校

「第七回」

〈平成二十二年七月九日(金)〉

場所：植木小学校

● 高取焼基礎研修講座について

〈平成二十二年七月三日(土)〉

十一月二十七日(土) 〳

場所：直方中央公民館、他

平成二十一年度に継続して、本年も研修講座を実施します。昨年「高取八山と高取焼について」文献と内ヶ磯窯の陶片をおしての講義を、文献と現物を中心に行つてきました。

この講座の結論は、内ヶ磯窯の大きさや規模から福岡藩の藩宮の大工場で、朝鮮陶工の高取八山一党では藩は心もとないため、唐津寺沢家からの五十嵐次左衛門に代表される一党、それに文献に現れない京のやきもの屋の京陶工の一郡の渡り陶工の介在が見え隠れしている。

内ヶ磯窯が開窯したのが、慶長十九年(一六一四)に火入れを行ったわけで、開窯当時はいわゆる古田織部好みの杢形茶碗・向付・皿・水指・花生等の茶道具と庶民のための日常の器を生産焼成したもので、発掘調査での検出遺物からも理解できる。

現在京阪地区の消費地の発掘調

査で、多くの内ヶ磯製の高取焼が
検出されている。京三条のやきも
の屋町の有来新兵衛邸や中之町遺
跡等から高取焼・唐津焼の九州の
製品が一分以上出土しているし、
秀吉が築城した大阪城遺跡の落城
の灰層の下の層から高取・唐津焼
が検出されている。また堺の市街
の消費地遺跡からも検出されてい
る。

これらの内ヶ磯製の製品を動か
したのは、島井宗室・神屋宗湛等
の博多商人と京三条界隈の京商人
達であったことが理解できる。

内ヶ磯製の織部好みの今ヤキと
称する茶道具や日常雑器等が畿内
で検出されている。

そのために、神屋宗湛が書いた
『神屋宗湛日記』を中心に茶会記
と古田織部との関係を求めてみる
ことに本年の研修講座とした。

第一回より第三回は終了したが、
あと第四回より第六回が残ってい
るので、是非参加してください。

第一回 七月三日 『神屋宗湛日記』
天正十五年 唐津から上洛(北野
茶会)に参加の為
第二回 七月二十四日
『神屋宗湛日記』

天正十五年十月十二日 古田織部
の茶会記録

慶長四年二月二十六日 古田織部
の茶会記録

第三回 八月二十八日

『神屋宗湛日記』

慶長十年六月朔日 古田織部の
茶会記録

第四回 九月二十五日(土) 十三時

『神屋宗湛日記』

慶長十一年九月廿二日 古田織部
の茶会記録

第五回 十月二十三日(土) 十三時

『神屋宗湛日記』のまとめ

宗湛から見た信長・秀吉・黒田家

第六回 十一月(調整中)

「神屋宗湛の遺跡を訪ねて歩く」

※博多駅集合

副島 邦弘



●「直方の焼スパ」デビュー!
(直方市賑わいまちづくり協議会)

〈平成二十二年八月七日(土)〉
場所：福岡市百道浜、他

直方市賑わいまちづくり協議会
「食の発掘」部会のイベントに参加
しました。

「ゆづやけ」の焼スパご存知ですか?
古高取の様に四〇〇年前の話では
なく、つい十五年前まで古町「田中
茶舗」の近くにあったそうです。

この「焼スパ」をご当地B級グルメ
として将来的には全国展開までと
大きな目標を持ち試作を重ねて、
酷暑の八月七日(土)百道浜のTNC
祭りと鞍手高校「鞍稜祭」にてデ
ビューしました。

各一〇〇食を無料提供しアンケ
ートをいただくとうことでした。
ほとんどの人が「なつかしい味」
「お母さんが作ってくれた味」と
うれしい回答でした。

今後の活動としては、イベントの
結果をふまえ「直方の焼スパ」で
町をアピールする。

ところで焼スパって何?

材料(スパゲッティ、豚肉、キャベ
ツ、玉ねぎ)をケチャップ味(醤油、
ソース)で焼仕上げたもの。

これからはいろんな所で焼スパ

を口にする機会があると思います。
ご期待を。

末松登志子



なんでも掲示板

●須崎町公園ステージでパネル
展示

平成二十二年五月二日(日)、直方
市須崎町公園で行われた「須崎町
公園ステージ」で古高取のパネル
展示が行われました。



いよいよはじまる！ 直方の宝「古高取」展 [9月28日(火)～10月3日(日)]

高取焼発祥の地・直方市の宅間・内ヶ磯の窯で焼かれた高取焼は「古高取」と呼ばれ、陶磁史の中でも極めて重要な位置を占めています。

「古高取を伝える会」はこの「古高取」の魅力を地域社会への発信・啓発活動を行うこと、次世代に伝承していくこと、およびこれらの活動を通し、直方のまちづくりに貢献していくことを目的として、平成20年4月1日から活動を開始しました。現在は理事会を軸に、焼物教室部会・広報部会・学習部会等様々な活動を行なっています。

当会では直方谷尾美術館にてわずか一週間足らずの期間ではありますが、活動の足跡を多くの方に知っていただくことも啓発活動の一つと考え、実行委員会を立ち上げ、直方の宝「古高取展」と銘うった催しを開催する運びとなりました。

直方谷尾美術館での催しは二度目です。今回は当会発足当初から続けている直方市内の小学校六年生を対象にしたマイ茶碗製作体験学習や平成21年度、5回のシリーズで行った勉強会の内容、そして、紅葉ウォーキングなど楽しいイベントを含めこれまでの活動の内容を様々な形で盛りだくさんに紹介してみることになりました。

10月2日(土) 11時からは直方歳時館子供茶道教室の子供達による呈茶や、午後1時30分からは学習部会が担当して行なう「古高取問答—なんでも質問箱に答える」を計画しています。そして翌3日(日)には直方で採取した粘土で作品を作る焼物教室を開催します。

焼物教室は午前と午後それぞれ25名ずつ、材料費・作品焼成費の実費は負担していただきます。先着順に受付させていただきますので、「古高取を伝える会」にお早めに直接お申込みください。

この催しの中でお勧めしたいのは、直方所在の内ヶ磯窯跡出土品の代表的なものと比較対比できる類似の伝世品を併せて展示させていただいている点です。さらに出土品から見てきた内ヶ磯窯や「織部好み」の茶陶器などの製作者に関わりのある作品等の情報など新しい展示を心がけています。

また視覚から実感していただくよう様々な工夫を凝らしていますので、一人でも多くの方にご観覧いただければ幸いです。

お誘い合わせのうえご来場いただけることを願っています。
(展覧会実行委員長)



写真は前回の「古高取」展の様子

〈掲載内容募集〉 「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。

〈編集後記〉

九月に入っても暑い毎日が続いていますが、九月は、直方の宝「古高取」展の準備や会報の発行、古高取標識作成の準備等広報部会の活動も盛り沢山です。暑さに負けないよう頑張ろうと思います。ホームページの充実や古高取の魅力発信のためには、まだ沢山やることがあると思います。皆様の益々のご協力をお願い致します。アイデア等もどうぞお聞かせください。みんな頑張ります。

「古高取通信」会報・NO7

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

平成二十二年九月十四日

〈現在の会員数〉

正会員 七十六名

賛助会員 十四名(十九日)

団体 二団体(三日)

〈マイ茶碗の数〉

3761個

〈事務局〉

〒八二二-〇〇二六

福岡県直方市津田町七十四

TEL 〇九四九(二三)一一三二